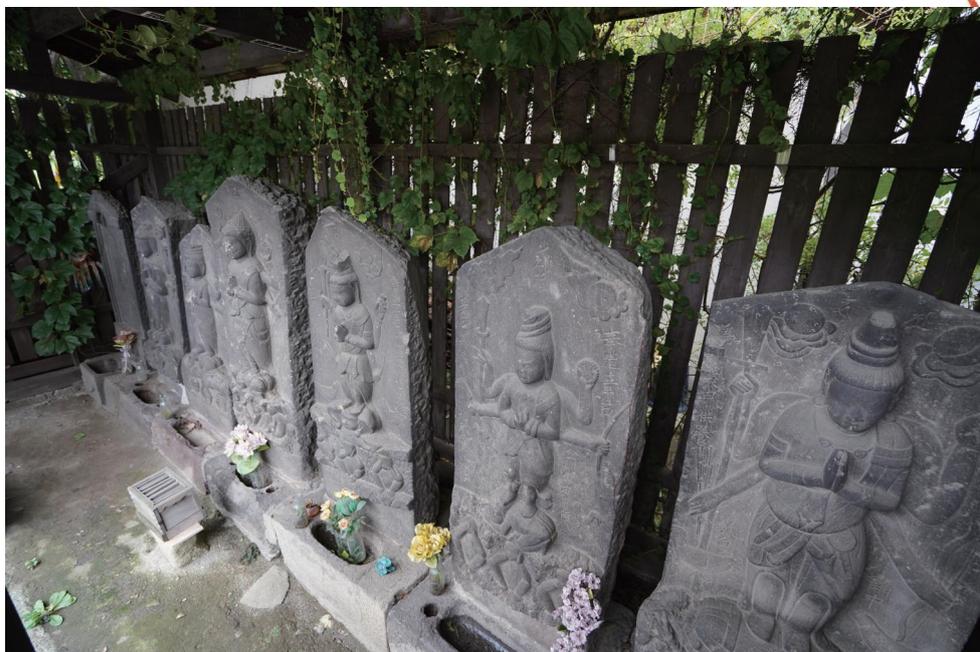


荒川放水路に沈むはずだった文化財

所在地:小台2-47-1



小台の七庚申

小台二丁目の路傍、荒川堤防すぐそばに七基の庚申塔が安置されています。現在の荒川は、明治末に計画された荒川放水路の開削工事で作られた川です。荒川放水路を作るにあたって、その流路となった場所にあった建造物は、水没するか曳家などで移転するしかありませんでした。それは文化財も同じで、流路にあった庚申塔も水没する運命にあったのです。その危機を救ったのが下川龜蔵氏です。

大正初期に開削工事が始まると、下川氏は付近にあった庚申塔が荒川放水路の底に沈むことを避けるため、庚申塔を集めて小台二丁目に移転し安置しました。これが小台の七庚申の始まりです。七基の庚申塔が一ヶ所に集まっている光景は見事なものです。

足立区には、庚申塔が現在まで多く残っていますが、庚申塔を大切に守り伝えている人々がいることを忘れてはなりません。



元禄15年(1702)銘
(右から3基目)

文化財豆知識 三猿が足立区で見られる!?

庚申塔は、申(猿)にちなんで、「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の三猿が台座付近に彫られることが多く、小台の七庚申にも三猿が彫られています。三猿というと、日光東照宮の左基五郎作といわれる三猿が有名ですが、足立区にある三猿も見事なものです。

